

## 現代社会で新しい共同体をつくる道しるべ

評|| 谷口起代 (千葉県松戸市・合同会社共創ラボ代表)

古い、障害、病といった「人間にとつての自然」を内包できるコミュニティを、個人がばらばらになつた都会のなかにこそ創りたい。そんな思いで、既存の医療・福祉制度とにらみあいつこをしながらか活動を模索してきました。突破口を求めて大学院の内山ゼミに入つたのが10年前。そこでの学びから、制度には頼らない「共に生きる場」を創り出す勇気をもらいました。2年前に地元の仲間と「100歳になつても働ける職場を自分たちで創ろう」を合言葉に会社を立ち上げ、作物の栽培や味噌加工など試行錯誤しながら仕事づくりに取り組んでいます。

新しい3部作には、この活動へと私を後押ししてくれた著者(内山先生)の教えのすべてが詰まっています。

制度上の福祉は、人を「支援する側」される側」という関係に分けてしまします。この関係によって支えられる人が地域が増えても、共に支え合つて生きるコミュニティは生まれません。第1、2巻を読むと、制度が、近代を動かしてきた西洋の「個人」という概念を基盤にするのに対し、コミュニティは「関係の論理」を基盤とするので、原理がまったく異なるのだとわかってきます。支援職がジレンマを抱えるのは当然のことなのだとなつていきます。

第3巻では、日本が中央集権国家となつたのは明治以降と極めて最近で、それまでは圧倒的に共同体が強く、自治の思想や共同体的暮らしの作法はまだまだ残っているという視点が提示されます。そして、私たちの基層には共同体の核となる「すべてがつながりあっている」という精神が今でも脈々と受け継がれているということが様々な逸話から描かれています。現代でも、いや、転換期であり近代がほころびをみせた今だからこそ、コミュニティづくりは可能なのかもしれないと、気がつくとも気づけられている。

矛盾を抱えながらもコミュニティづくりをあきらめていない人たちと共に、じっくりと読みたい。そんな3部作です。



### 『内山節と語る未来社会のデザイン』

全3巻

- 1 民主主義を問いなおす 1320円
- 2 資本主義を乗りこえる 1210円
- 3 新しい共同体の思想とは 1320円

内山 節 著

農文協 揃価 3850円(税込)